

福津の8つの郷づくり

未来に向けた地域づくりを一緒に始めませんか



津屋崎地域郷づくり推進協議会

拠 福津市まちおこしセンター 津屋崎千軒なごみ (令和4年4月移転予定)
所 津屋崎 3-17-3
☎ 52・1553



勝浦地域郷づくり推進協議会

拠 勝浦郷づくり交流センター
所 勝浦 2274-1
☎ 52・2217



宮司地区郷づくり推進協議会

拠 宮司コミュニティセンター
所 宮司浜 2-15-1
☎ 52・0780



福間地域郷づくり推進協議会

拠 福間郷づくり交流センター (愛称：ふくまりん)
所 西福間 2-7-33
☎ 72・1085

今回は、その郷づくり活動の一部と、郷づくりを支える人たちの思いを紹介し
 ます。
問い合わせ 市まちづくり推進室 ☎62・5017

市には、課題解決や魅力ある地域づくりに取り組む8つの郷づくり地域があります。そして「地域と人、人と人がつながる場所をつくりたい」というあつい思いを持って、日々活動している人たちがいます。

拠 拠点施設
所 所在地
☎ 電話・ファクス番号
 ● 拠点施設の場所



神興地域郷づくり推進協議会

拠 神興郷づくり交流センター
所 東福間 6-4-1
☎ 43・0621



神興東地域郷づくり推進協議会

拠 神興東郷づくり交流センター (愛称：ふれあいじんとう)
所 久末 236-1
☎ 43・1421



福間南地域郷づくり推進協議会

拠 福間南郷づくり交流センター (愛称：南しょっとセンター)
所 日蒔野 4-19-1
☎ 72・5138



上西郷地域郷づくり推進協議会

拠 上西郷郷づくり交流センター
所 内殿 591-15
☎ 72・5093

自治会との関係

自治会とは、同じ地域に住む人たちがお互いに助け合い、暮らしの課題を一つ一つ解決することで、住みよい地域をつくる一番身近な組織です。年間を通して、自治会の特性を生かしたさまざまな取り組みを行っています。自治会単独では対応が困難なことや、広域で取り組んだ方が効果的な場合は、専門的な知識を持つ団体と連携し、郷づくり地域単位で取り組んでいます。

郷づくりの活動

協議会では、地域課題の解決に取り組むために、主に次の活動分野でさまざまな取り組みを行っています。
防犯・防災 登下校の見守り活動、防犯パトロール、防災研修など
福祉 健康サロン、高齢者の見守り活動、買い物支援など
子育て 子育てサロン、学習支援など
環境・景観 河川や道路の清掃、違反広告物の除去など
地域交流・活性化 祭りなどの親睦活動、会報発行など

郷づくり

郷づくりとは「自分たちの地域は自分たちで育てる」という考えのもと、地域に住んでいる皆さんが中心となって取り組む地域づくり活動のことです。地域に合ったやり方で、支え合い、協力し合うことで、その地域の実情に合った地域づくりが可能になります。市では、市内をおおむね小学校区の8つの地域に分け、各地域に郷づくり推進協議会を設立しています。

郷づくり推進協議会

郷づくり推進協議会（以下、協議会）は、自治会を中心として、各種団体やボランティアなどと協力・連携して地域づくりの活動に取り組む組織です。地域内の意見や課題を幅広く収集し、地域課題に取り組んだり、複数の自治会での取り組みなどに対し、地域内の連携を図ったりする役割を担っています。
 市は、協議会を共働のまちづくりに欠かせない重要なパートナーと位置付け、共にまちづくりを進めています。

神興東



神興東地域郷づくり推進協議会
福祉部会長 長井和子さん

福祉
ヨガ教室

ヨガ教室は、神興東地域在住でヨガ教室の先生である石橋先生は「地域のためにできることはありませんか」という声掛けから、令和元年に始まりました。現在は毎月第3火曜日の午前と午後で開催しています。定員は1回20人で、年齢や性別を問わず申し込みがあります。事業が長く続くと参加者が減ることもありますが、ヨガ教室はむしろ増えています。それはリラックスできるなどのヨガの効果もあると思いますが、優しい声掛けで参加者に寄り添う石橋先生の影響も大きいと感じます。参加者からは「コロナ禍で活動が中止になり、月に1回でも楽しみにしていたのだと改めて気付いた」など、活動を楽しみにしている声も多く、そういう場所が郷づくり神興東にある

人と人とのつながりができる場所になれば

ことがとてもうれしいです。ヨガ教室だけでなく他の活動でも、回数を重ねるうちに参加者同士の知れ合いが増え、人々とのつながりができていることを感じます。あまり外に出る機会がない人にもぜひ参加してもらい、郷づくり神興東が地域の皆さんにとって一つの居場所になればと思います。



子どもが安心して自由に遊べる場所ができたという思いからプレーパークは誕生しました。昭和公園で、毎週土曜・日曜日、午前10時から午後5時まで活動しています。プレーパークでは、できるだけ禁止事項や「ダメ」を少なくして、子どもたちの「やってみよう」という気持ちを尊重しています。プレーパークにはプレーリーダーと呼ばれるスタッフが配置していますが、あくまで子どもたちを見守るだけで、遊びの指導は行いません。運営に携わっていると、子どもたちが遊びを通じて、気付きや学びを得て、成長していく姿を見ます。一方で、さまざまな環境に置かれている子どもたちも目の当たりにします。そのような子どもたちを含め、プレーパークが「子

プレーパークはみんながつながる場



福間地域郷づくり推進協議会
専任事務局員 山口恵美さん

子育て
プレーパーク

どもにとつての居場所」になっていると思います。最近では、お父さん同士で連絡先を交換したという話も聞きます。子ども同士の関係もそうですが、保護者同士の関係も大切にしています。今後、プレーパークの活動が広まり、みんなのつながりの場になればうれしいです。

協議会では、活動分野ごとに部会や委員会を設置し、地域の特性や課題に応じて個性的で魅力ある取り組みを行っています。今回は、主な5つの活動分野ごとに8つの協議会の皆さんに活動を始めたきっかけや活動に対する思いを聞きました。

宮司



宮司地区郷づくり推進協議会
安全安心部会長 阿部康英さん

防犯・防災
自主防災避難訓練

自主防災避難訓練は、市一斉防災訓練が行われる前から取り組んできた長年の活動です。東日本大震災をきっかけに、避難所の開設や運営には何が必要だろうと考えるようになりました。学生の防災意識を高めたいという学校側の思いと、避難所運営体制を強化したいという宮司地区側の思いが一つになり、数年前から中学生とも一緒に活動しています。中学生には、避難所開設時を想定して、避難者の対応や炊き出しの配膳を体験してもらいました。災害は起きないに越したことはありませんが、近年の自然災害の発生状況を見ると、今までの訓練が何か役に立つかもしれないと感じています。他にも、他地域への視察や消防署、自衛隊などによる講演会の開催など、毎回活動内容を工夫しています。

地域の人が地域を支えられるように



災害は、部会員全員が地元にいるときに発生するとは限りません。そんなとき、一番頼りになるのは地域の人たちです。そういう面でも、小・中学生のころから、自分の住んでいる地域の活動に触れてもらい、いづれは地域を支える担い手になっていってもらえたらうれしいです。

勝浦



勝浦地域郷づくり推進協議会
専任事務局員 花田孝信さん

福祉
いきいき健康サロン

いきいき健康サロンの健康増進や介護予防を目的として、令和元年の10月から実施しています。毎月第4木曜日に開催していて、毎回15人ほどが健康測定、健康体操、ゲーム、脳トレクイズをしています。特に福津に関するクイズは大人気で、参加者同士とても盛り上がります。コロナ禍で活動できないときは、クイズの問題用紙を郵送し、在宅でもできることをサポートしていました。「楽しかった。また来るね」など、皆さんが楽しみにしてくれることは運営側としてもうれしいです。

世代を超えたつながりを増やしていきたい

もが関わる機会が減少する中、世代を超えたつながりを増やしていけたらと思っています。地域の役に立ちたいという思いがあれば、誰でも郷づくりの活動に関わることが出来ます。まずはどんな活動をしているのか実際に見てもらい、郷づくりの活動を共に進めていける仲間が増えたらいいなと思います。





神興
神興地域郷づくり推進協議会
環境景観部会長 山下敏治さん

環境・景観
地域交流・活性化
地 竹灯まつり

神興地域では、放置された竹林を整備するために竹を伐採して、捨てた竹をただ「もったいないから始まった竹灯まつりの継承」と感じていたときに竹灯を知り、この竹灯を活用して地域交流が図れないかと始まったのが、10月に行う竹灯まつりです。竹灯とは、竹に穴を開けて内側に光を灯す幻想的な作品です。光陽台・手光地域と東福岡地域の人が交流できる場をつくりたいと、神興地域の中心である冠川周辺で開催しています。

もったいないから始まった竹灯まつりの継承

中学生だけでなく、竹灯に興味を持った参加者が増える、また新しい催し物ができるかもしれません。たくさんの方の発想を取り入れながら、この活動を継承していきたいと思っています。



参加者からは「自然が多くて、歩いていて気持ちがいい」「ウォーキングが生活の一部になり、精神的・肉体的にも前向きになった」など、うれしい感想をもたらしています。

ウォーキングで心も体も前向きに



かすことで体力づくりはもとより、気分転換になり、ストレス解消にもなります。寒さやコロナ禍で家にこもりがちになっていませんか。自分の健康のためにも、気軽に始められるウォーキングにチャレンジしてみませんか。申し込めば、ぜひ一度、南しよっとセンターにお越しください。お待ちしております。



福岡南
福岡南地域郷づくり推進協議会
専任事務局員 池田典彦さん

地域交流・活性化
地 ウォーキングチャレンジシップ



津屋崎
津屋崎地域郷づくり推進協議会
環境部会長 坂口勝繁さん

環境・景観
松林保全活動

津屋崎地域の海岸沿いに約8.5km続く松林は、江戸時代に海からの飛砂や塩害の被害を防ぐために植えられ、今もなお活躍しています。今から約50年前、人が立ち入らなくなり放置された松林は、ジャングルのようになっていました。その松林を見て「このままではいけない。何とかしなければ」という思いから活動は始まり、現在まで続いています。冬場は第2・4土曜日、夏場は毎週土曜日、午前8時から1時間ほど草刈りを行っています。毎回70代を中心に20人程度が参加しています。

歴史ある松林を守っていききたい



つた声は私たちのやりがいにつながっています。清掃に使用する道具は全て貸し出しているので体一つで参加できます。3月には松の植え付けをする植樹祭も予定しているの、興味がある人は津屋崎郷づくりに来てみてください。私たちと一緒に歴史ある松林をこれからも守っていきましょう。



上西郷
上西郷地域郷づくり推進協議会
会長 高木文明さん

環境・景観
西郷川環境美化推進事業

上西郷地域のシンボルともいえる西郷川をきれいにしようと、18年前から環境美化清掃を行っています。現在は、夏と秋の年2回、各自治会から十数人に参加してもらい、自治会ごとに担当エリアを分けて草刈りを行っています。部会員には農業をしている人も多く、お互いに知識や知恵を出し合いながら活動しています。

子どもたちが安心して遊べる西郷川に



清掃活動の他に、花壇の整備にも取り組んでいます。河川沿いを見た地域の人から「きれいですね」と言ってもらえたときはとてもうれしく、やっていて良かったと思える瞬間です。私たちの世代が子どもだったころは、西郷川でよく遊んだものです。もう一度、昔のように、子どもたちが安心して遊べる環境をつくりたいと思っています。

市民の皆さま

はじめに、現在、新型コロナウイルスの感染は本市においても落ち着きを取り戻し、いったん終息している状況は、市民の皆さまのご尽力のたまものであります。市長として、心より感謝申し上げます。

一方で、外国では新たな変異株が発生し、日本での感染者も確認されました。これから年末年始を迎えるにあたり、感染予防の基本的対策は継続していただきますよう、何卒お願い申し上げます。

つい先日、日中戦争が本格化した1936年(昭和11年)、および戦後間もない1953年(昭和28年)当時の、日本の市井の模様、人々の風景をカラー動画で見る機会がありました。大正の大合併から戦争を挟み、昭和の大合併がおこなわれていた時代の映像でしたが、そこには、今と変わらぬ日本人の姿や笑顔やコミュニティの風景がありました。

その時代の教育の分野については、戦争一色となった昭和16年に学区制が導入されているはずですが、有事(戦時)における確実で安定的な供給体制は地域コミュニティに人々を帰属させることが目的で、校区の設定はそういう考えを含めたところで管理された近代の発想から生まれたものでもありました。

福津市に目を向けると、津屋崎地域は、宮地村と勝浦村が津屋崎町と一緒に、現在の地域の原型ができました。福岡地域は上西郷村と下西郷村、神興村が合併し福岡町が誕生しました。

平成の大合併により全国に約3200余り存在していた市町村は約1700となりました。福津市もこの時期に合併という選択をし、多くの産みの苦しみを伴いながら「地域とともにあること」を掲げ誕生しました。それは、役所だけでなく市民も一つになるという理想に向かい、コミュニティの再編・再生を大きな夢とともに進めていく市民参画の都市としての船出でした。

その後、市内を8つのエリアに分ける郷づくりの編成、平成23年度に行政区長制度の廃止、平成26年度に行政区長ではなく自治会が主な構成員となった郷づくりに交付金として交付する「地域予算制度」の導入、平成29年度に郷づくり基本構想の策定など、この10年を見てもさまざまな見直しを行い、現在に至ります。

人権を尊重し、本市が市民参画の都市を目指していく中で、住民自治、地域自治の取り組みと理念に、市民の皆さまからのご協力を得ることができ、両町の魅力が融合し、その資源を外にも発信することに成功しました。

市の活力の源は市民の皆さまが、地域自治のあり方や、地域の困難や課題も話し合いで解決し、環境が整った市になるように、市民の皆さまに地域自治やコミュニティのありかたについて、不断の関心を持っていただいたからだと考えています。そして、その努力は継続していかなければなりません。

すでに令和3年12月議会で申し上げましたが、地域コミュニティのあり方の見直しについては、そのプロセスの明確化や地域への説明、そして、市民の安全と自由を担保するための取り組みを次年度より行ってまいります。そして、さまざまな地域課題には私をはじめ、市職員が一緒になって、課題の解決を図ってまいります。

最後に、本日、令和3年第1回総合教育会議を、令和2年10月30日以来約1年ぶりに開催し、その中で、教育委員会と私が「令和9年開校を目指し、小学校1校と適正規模の中学校1校を新設する」という方向性について、合意しましたことを報告いたします。

4月に就任いただいた大嶋教育長には、学校現場や市のまちづくりなど、さまざまな視点に寄り添い、難しい調整をすすめていただきました。今後、正式な場所や、規模、校区その他の諸問題について、さらに詳細をつめ、令和4年から着手していきたいと思います。上西郷川の再生プロジェクトのように、地域とともに構想し、地域とともに育み、市民に愛され続ける学校とコミュニティをつくっていかと思っています。

年末年始、くれぐれもお身体にご自愛いただき、良いお年をお迎えいただきますようお願いいたします。

令和3年12月15日

福津市長 原 智仁

郷づくりは絆づくり

「郷づくりの活動をしていて一番良かったことは知り合いが増えたこと」。今回取材した皆さんは口をそろえてこう言います。

協議会では、今回紹介した活動以外にも、それぞれの地域の特性を生かした多様な取り組みを行っています。暮らしやすい地域をつくるために課題を解決することはもちろん、郷づくりの活動を通してできた人と人とのつながりは「大きな財産」です。郷づくりの役員の皆さんは「郷づくりの活動に参加することで、おのずと地域に顔見知りが増えた。福津に住んでいる人も、新しく福津に移り住んできた人も、地域で生きがいを見つけ、ここに住んでいて良かったと感じてもらいたい」と語ります。

一方で課題もあります。取材をする中で最も多く声が挙がったのが「活動の担い手不足」。日々、行事や活動を企画・運営していますが、今後これらの活動を引き継いでいけるのか不安もあります。役員の皆さんは「まずは多くの人にイベントに参加してもらい、楽しい思い出を作ってもらい。そして、子育てが落ち着いたときや定

年退職後、もちろん現役世代の人も、時間ができたときにできる範囲で、今度は地域を担う側として参加してもらいたい」と言います。

「自分たちの地域は自分たちで育てる」。この意識を持つことが、いろいろな世代の人が地域活動に携わり、自然と世代交代していく仕組みづくりにつながります。役員の皆さんが「新たな参

加者の意見は参考になり、とても貴重」というように、活動の活性化・継続のためには皆さん一人一人の力が必要です。

郷づくりの活動を知るために、まずはイベントに参加してみませんか。そして2、3ページで紹介したお住いの地域の郷づくり拠点施設にぜひ行ってみてく

ださい。表紙に登場している専任事務局員が、皆さんを温かく出迎えます。

地域の人とのつながりや新しい人との出会いは人生を豊かなものにしてくれます。地域づくりの主役は地域の一人である皆さんです。皆さんも一緒に郷づくりに取り組み、ここに住んで良かったと思える地域をつくっていきませんか。

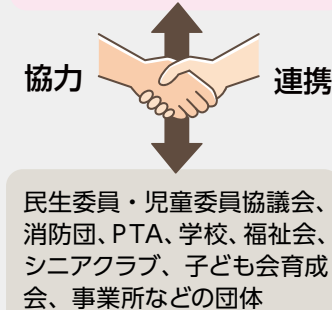
郷づくりのイメージ

地域を取り巻く現状

- 高齢化
- 住民ニーズの多様化
- つながりの希薄化
- 自然災害の発生 など

郷づくり地域

自治会を基軸とする
郷づくり推進協議会



市

パートナーシップ
共働のまちづくり

参画
参加

市民

- さまざまな団体と連携・協力しながら地域の課題を地域で解決し、安心・安全で暮らしやすい地域をつくる

郷づくりの将来像

人と地域の絆をつくる 郷づくり

